

## 花き・茶の生産安定と経営発展（花き）

### 成果の要約

- 1 キクでは、アザミウマの発生予察調査を行い、それに基づいた効率的初期防除が図られた。
- 2 シンビジウムのRACコード利用の農薬表や病害虫リーフレットを活用し、効率的な防除への意識が高まった。
- 3 法人経営体では作業日誌、勤務管理等をクラウド上でデータ管理し、年間生産計画の見える化で計画生産が進んだ。

### 1 対象

- (1) 出水地域輪ギク研究会 6 戸
- (2) 出水地区シンビジウム研究会 5 戸
- (3) JA鹿児島いずみ東事業所花き部会 2 戸
- (4) 出水市認定農業者の会・花き部会 11 戸
- (5) 出水市緑花樹生産協議会 27 戸

### 2 課題を取り上げた理由

- (1) 産地維持のため、生産組織・研究会への継続的な課題解決支援が必要である。
- (2) 花き生産安定のため、切り花の品質向上を図る必要がある。特に最近、病害虫被害による品質低下が多く、対策が必要である。
- (3) 経営発展の目指し、スマホ等のICT技術を活用し、情報共有や業務の効率化を図る。

### 3 活動の内容及び成果

- (1) 花き組織活動の支援  
産地規模の維持や栽培技術の平準化を目指し、病害虫資料の提供等個別指導を中心に活動を行った。特にキクについて病害虫防除等の発生状況や技術情報をスマホ等を活用し提供し、情報共有への意識が高まった。

緑花樹生産協議会では、現地視研修で相互の生産・在庫状況を確認し、効率的な受注・販売に取り組んだ。

- (2) 高品質、安定生産技術の向上

#### ア キク病害虫防除体系の実践支援

害虫の発生予察調査を行い、その結果に基づきRACコード利用のローテーション防除表を活用した防除に取り組み、発生状況と防除情報をスマホで提供し迅速な効果的な初期防除の徹底が進んだ。



写真1 アザミウマのトラップ(青色粘着版)

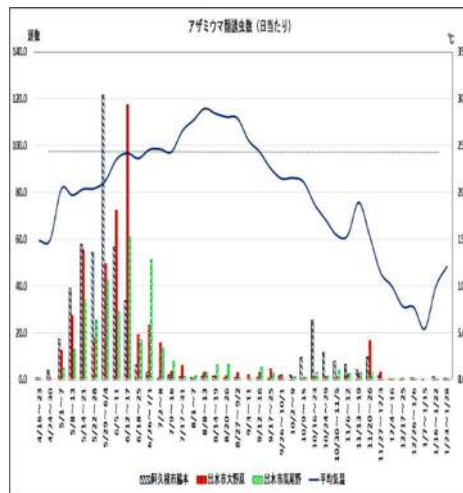


図1 アザミウマの誘虫状況と気温

## イ シンビジウムの防除体系の確立

RACコード利用のローテーション防除表や、写真入りの病虫害リーフレットを活用した防除に取り組み、的確な病虫害診断と効果的な病虫害防除への意識が高まった。

「シンビジウム」の主要な病害		園芸振興協議会出水支部	
 <p><b>根腐病</b></p> <p>【症状】根が侵され水浸状、バルブは暗褐色、下葉から黄化【病原】糸状菌【時期】晩秋～翌春、多湿時【伝染】土壌・水媒伝染【防除】多湿、長雨に当たらない、発病株は焼却</p>	 <p><b>葉枯病</b></p> <p>【症状】葉先に黒褐色の小斑点、やがて暗褐色の大型病斑、葉先から枯れる【病原】糸状菌【時期】通年、通風不良、生育・栄養状態悪化時【伝染】空気感染【防除】枯葉の除去等環境の健全化、</p>	 <p><b>軟腐病</b></p> <p>【症状】葉の基部、バルブ、根が侵され腐敗し、悪臭をはなつ【病原】細菌【時期】梅雨時～秋、高温多湿【伝染】土壌伝染、傷侵入【防除】通風・換気、病株焼却、使用器具の火炎・煮沸消毒、薬剤</p>	 <p><b>腐敗病</b></p> <p>【症状】根は褐変腐敗、バルブは内部が軟化腐敗、葉もバルブも枯死【病原】糸状菌(フザリウム)【時期】春～秋、高温多湿【伝染】土壌・空気伝染【防除】用土や鉢の更新又は煮沸消毒、薬剤防</p>
 <p><b>炭疽病</b></p> <p>【症状】葉に黒褐色の小斑点、拡大し淡褐色～灰白色の楕円形病斑、健全部との境界に明瞭な黒褐色帯【病原】糸状菌【時期】梅雨時～夏、高温多湿【伝染】空気伝染【防除】通風換気、ほ場衛生、病葉の切除、薬剤防除</p>	 <p><b>褐色腐敗病</b></p> <p>【症状】苗時に発生、葉先・縁に水浸状斑、拡大し淡褐色、葉先から腐敗【病原】細菌【時期】梅雨期～夏、高温たしつ【伝染】土壌・接触伝染【防除】通風換気、ほ場衛生、病葉切除、新資材使用、薬剤防除</p>	 <p><b>白絹病</b></p> <p>【症状】葉先にバルブの地際付近に淡黄色の斑紋、バルブ全体が暗褐色、白色菌糸や粟粒状菌核【病原】糸状菌【時期】高温期【伝染】土壌伝染【防除】病株除去、新資材使用、薬剤防除</p>	 <p><b>モザイク病(OBSV)</b></p> <p>【症状】葉にモザイクやクサザ形の退色斑紋、えそ症状が現れ生育が押さえられる【病原】ウイルス【時期】周年【伝染】汁液・接触・土壌伝染【防除】病株除去、新資材使用、使用器具の消毒(熱・薬)</p>

図2 シンビジウム主要病害図

### (3) 独自性のある経営体の育成

#### ア 個人経営体への経営改善実践

重点モデル農家2戸に対して、営農計画の検討や病虫害防除、栽培技術支援を行い、個別カウンセリング、経営分析等により課題を整理し、改善策を提案した。

キク農家では、病虫害被害の軽減による品質の向上に向け総合防除への関心が高まり、農薬の効果的ローテーション防除が実践できた。

シンビジウム農家では、夏季高温時の山上げ栽培を行っているがその期間の管理や山下げ時期の判断など、11月からの早期出荷向けの課題が明確になった。

#### イ 法人経営体への経営改善実践

重点モデル法人1戸に対して、経営安定のため、作付計画、作業日誌及び出荷実績

の情報共有を図り、機関機関と連携して定期的に検討会と個別相談を実施した。

作業日誌、勤務管理等各種業務をクラウド上でデータ管理し、年間生産計画を見える化し進捗状況を照合する事で、計画生産が進んだ。

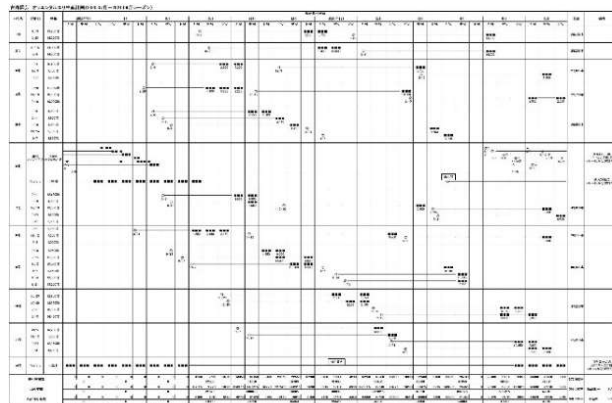


図3 ユリ年間生産計画表

## 4 今後の課題

- (1) 産地維持のための組織活動の充実
- (2) 産地全体としての病虫害防除や有利販売のための情報共有化
- (3) ICT活用による情報収集、共有化とその有効活用